

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.7.19-7.25

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

40:34 そのとき、雲は会見の天幕をおおい、主の栄光が幕屋に満ちた。

40:35 モーセは会見の天幕にはいることができなかった。雲がその上にとどまり、主の栄光が幕屋に満ちていたからである。

40:36 イスラエル人は、旅路にある間、いつも雲が幕屋から上ったときに旅立った。

40:37 雲が上らないと、上る日まで、旅立たなかった。

40:38 イスラエル全家の者は旅路にある間、昼は主の雲が幕屋の上に、夜は雲の中に火があるのを、いつも見ていたからである。

幕屋が完成し、そこで主の命令通りに主を礼拝するときに、主の栄光が満ちました。それは私たちの地上の旅も同じです。主がご自身を表してくださるよう、主に従いましょう。

彼らはさらに約束の地を目指しました。主が誓われた約束の地は彼らの希望でしたが、私たちにとってそれは天国です。この地上の旅路には主の臨在（ともにいてくださるということ）が、最重要のことです。幕屋とその器具と用い方を考えるなら、主がともにいてくださるということは、安易なものではないことがわかります。

主とともに歩みましょう。また主の行かれるところにご一緒しましょう。主のタイミングで行動しましょう。幕屋のすべての条件を完全に満たしてください。主イエスに感謝して、イエス様がいてくださることで平安と勇気を持って前進しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



12 指揮者のために。八弦の立琴に合わせて。
ダビデの賛歌

12:1 主よ。お救いください。聖徒はあとを絶ち、誠実な人は人の子らの中から消え去りました。

12:2 人は互いにうそを話し、へつらいのくちびると、二心で話します。

12:3 主が、へつらいのくちびると傲慢の舌とを、ことごとく断ち切ってくださいように。

12:4 彼らはこう言うのです。「われらはこの舌で勝つことができる。われらのくちびるはわれらのものだ。だれが、われらの支配者なのか。」

12:5 主は仰せられる。「悩む人が踏みにじられ、貧しい人が嘆くから、今、わたしは立ち上がる。わたしは彼を、その求める救いに入れよう。」

12:6 主のみことばは混じりけのないことば。土の炉で七回もためされて、純化された銀。

12:7 あなたが、主よ、彼らをお守りになります。あなたはこの時代からとこしえまでも彼らを保たれます。

12:8 人の子の間で、卑しいことがあがめられているときには、悪者が、至る所で横行します。

ダビデの賛歌は、主の真実を歌ったものですが、それは偽りの横行するこの世で、いよいよ明らかになる真実です。このように私たちの賛美は、ただ表面的に良さそうなことばかりを扱うのではなく、この世の現実の中で表されるものです。この世の矛盾に悩む人があるなら、なおのこと主のすばらしさを明らかに覚えましょう。

そのようなこの世の「うそ」「へつらい」の中にあっても、詩人は、主が「立ち上がり」てくださることを神事抜きます。もしもその信頼がなかったら、人は正しい生き方を全うできないでしょう。正しく歩むには主への信頼が必要です。

悪いことを経験した人が何でも知っているかのように思ってしまう傾向が、この世にはありますが、そうではありません。主のみことばこそが、百戦錬磨のつわものをつくります。なぜなら「7回ためされて、純化された」ものだからです。主のみことばに頼る私たちこそが、経験豊富な者にまさるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



13 指揮者のために。ダビデの賛歌

13:1 主よ。いつまでですか。あなたは私を永久にお忘れになるのですか。いつまで御顔を私からお隠しになるのですか。

13:2 いつまで私は自分のたましいのうちで思い計らなければならないのでしょうか。私の心には、一日中、悲しみがあります。いつまで敵が私の上に、勝ちおごるのでしょうか。

13:3 私に目を注ぎ、私に答えてください。私の神、主よ。私の目を輝かせてください。私が死の眠りにつかないように。

13:4 また私の敵が、「おれは彼に勝った。」と言わないように。私がよろめいた、と言って私の仇が喜ばないように。

13:5 私はあなたの恵みに抛り頼みました。私の心はあなたの救いを喜びます。

13:6 私は主に歌を歌います。主が私を豊かにあしらわれたゆえ。

「主よ。いつまでですか。」とは、詩篇によく出てくることばです。私たちも同じで、我慢、忍耐、苦しみ、ストレス、乏しさ、不安、逆境などが、いったいつまで続くのかと思うときがあります。どんなに大変でも、それが終わる見通しがあれば、希望もあるのですが、なければいっそう苦しくなります。

そんな時は主に訴えるしかありません。私たちも「答えてください。」「輝かせてください。」と主に訴えましょう。そのときに希望が与えられます。それは状況の変化に一喜一憂するような、不安定な希望ではありません。永遠普遍の神様を根拠とする希望です。「喜びを歌います。」と、希望を表しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



たりする前に、主を誇りとし頼りましょう。

14:1 愚かな者は心の中で、「神はいない。」
と言っている。彼らは腐っており、忌まわし
い事を行なっている。善を行なう者はいない。

14:2 主は天から人の子らを見おろして、神を
尋ね求める、悟りのある者がいるかどうかを
ご覧になった。

14:3 彼らはみな、離れて行き、だれもかれも
腐り果てている。善を行なう者はいない。ひ
とりもいない。

14:4 不法を行なう者らはだれも知らないのか。
彼らはパンを食らうように、わたしの民を食
らい、主を呼び求めようとはしない。

14:5 見よ。彼らが、いかに恐れたかを。神
は、正しい者の一族とともにおられるからだ。
14:6 おまえたちは、悩む者のはかりごとをは
ずかしめようとするだろう。しかし、主が彼
の避け所である。

14:7 ああ、イスラエルの救いがシオンから
来るように。主が、とりこになった御民を返
されるとき、ヤコブは楽しめ。イスラエルは
喜べ。

愚かな者と賢い者について歌われています。それ
は知識にもよるでしょう。本当の知恵とは難しいこ
とを言う能力ではありません。それは人と自分を幸
いに導く力ではなくては意味がありません。私たちは
本当の知識、賢さを持っているでしょうか。

幸いに導く力は神様から来るものです。神こそが
天地を創って、御支配なさる義なるお方ですから、
そのことを認めて、このお方から幸いをいただくこ
とこそ賢さです。そのような知恵を尊重し、また求
めましょう。

また人をそのような成長に導ける能力こそが、本
当の知恵とも言えます。この世の知恵、賢さは
「悟りのある者がいるかどうか」ご覧になる神様か
らは離れています。そのような者を誇ったり、頼つ

②どんな思いになりましたか？（感情や願い
など）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、
愛の満たしなど）



15 ダビデの賛歌

15:1 主よ。だれが、あなたの幕屋に宿るのでしょうか。だれが、あなたの聖なる山に住むのでしょうか。

15:2 正しく歩み、義を行ない、心の中の真実を語る人。

15:3 その人は、舌をもってそしらず、友人に悪を行わず、隣人への非難を口にしない。

15:4 神に捨てられた人を、その目はさげすみ、主を恐れる者を尊ぶ。損になっても、立てた誓いは変えない。

15:5 金を貸しても利息を取らず、罪を犯さない人にそむいて、わいろを取らない。このように行なう人は、決してゆるがされない。

神と共にいることほど安心はありません。旧約においては巡礼者が神殿でこのように、式分でのやりとりをしたようです。それはまさに私たちの信仰のあり方でもあります。

ここにあるような生き方を守るなら、私たちは主と共に生きる者なのです。舌、つまりことばが良いものであるように気をつけて語りましょう。また権力や派手さを尊ぶのではなく、主を恐れる人を尊びましょう。そのような人の考えを尊重し、もしもそれが苦言であっても受け入れるようにしましょう。誓いを変えずに守りましょう。利息やわいろのような、自己中心な利益をとらないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



16 ダビデのミクタム

16:1 神よ。私をお守りください。私は、あなたに身を避けます。
 16:2 私は、主に申し上げました。「あなたこそ、私の主。私の幸いは、あなたのほかにはありません。」
 16:3 地にある聖徒たちには威厳があり、私の喜びはすべて、彼らの中にあります。
 16:4 ほかの神へ走った者の痛みは増し加わりましょう。私は、彼らの注ぐ血の酒を注がず、その名を口に唱えません。
 16:5 主は、私へのゆずりの地所、また私への杯です。あなたは、私の受ける分を、堅く保ってくださいます。
 16:6 測り綱は、私の好む所に落ちた。まことに、私への、すばらしいゆずりの地だ。
 16:7 私は助言を下さった主をほめたたえる。まことに、夜になると、私の心が私に教える。
 16:8 私はいつも、私の前に主を置いた。主が私の右におられるので、私はゆるぐことがない。
 16:9 それゆえ、私の心は喜び、私のたましいは楽しんでる。私の身もまた安らかに住まおう。
 16:10 まことに、あなたは、私のたましいをよみに捨ておかず、あなたの聖徒に墓の穴をお見せにはなりません。
 16:11 あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。あなたの御前には喜びが満ち、あなたの右には、楽しみがとこしえにあります。

主に身を避ける者の生き方です。苦難の中にあつ



ても、このような信仰で生きるなら、「楽しみがとこしえに」あるのです。
 聖徒の交わりは、信仰が中心で、それが楽しいものとなるのです。それはこの世のどんな力にもまさるので、威厳となります。
 他の神に走った者、すなわし神様への信仰を捨てて行った人は、そのときは良いように見えても「苦しみが増し」加わるという結果になってしまいます。ですから、そのような生き方に加担して、「血の酒を注ぐ」ようなことはしないというのが、作者の決心です。
 そのような人は、結局主の祝福にあずかり、「測り綱は私の好むところに」落ちる、すなわち主にお任せしても、主は最善にしてくださいということです。
 主を前に置きましょう。つまり主を意識的にもしっかりと見据えながら、主の方へと前進しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



17 ダビデの祈り

17:1 主よ。聞いてください、正しい訴えを。耳に留めてください、私の叫びを。耳に入れてください、欺きのくちびるからでない私の祈りを。

17:2 私のためのさばきが御前から出て、公正に御目が注がれますように。

17:3 あなたは私の心を調べ、夜、私を問いただされました。あなたは私をためされましたが、何も見つけ出されません。私は、口のあやまちをしまいと心がけました。

17:4 人としての行ないについては、あなたのくちびるのことばによりました。私は無法な者の道を避けました。

17:5 私の歩みは、あなたの道を堅く守り、私の足はよろけませんでした。

17:6 神よ。私はあなたを呼び求めました。あなたは私に答えてくださるからです。耳を傾けて、私の申し上げることを聞いてください。

17:7 あなたの奇しい恵みをお示してください。立ち向かう者から身を避けて右の手に来る者を救う方。

17:8 私を、ひとみのように見守り、御翼の陰に私をかくまってください。

17:9 私を襲う悪者から。私を取り巻く貪欲な敵から。

17:10 彼らは、鈍い心を堅く閉ざし、その口をもって高慢に語ります。

17:11 彼らは、あとをつけて来て、今、私たちを取り囲みました。彼らは目をすえて、私たちを地に投げ倒そうとしています。

17:12 彼は、あたかも、引き裂こうとねらっ



ている獅子、待ち伏せしている若い獅子のようです。

17:13 主よ。立ち上がってください。彼に立ち向かい、彼を打ちのめしてください。あなたの剣で、悪者から私のたましいを助け出してください。

17:14 主よ。人々から、あなたの御手で。相続分がこの世のいのちであるこの世の人々から。彼らの腹は、あなたの宝で満たされ、彼らは、子どもらに満ち足り、その豊かさを、その幼子らに残します。

17:15 しかし、私は、正しい訴えで、御顔を仰ぎ見、目ざめるとき、あなたの御姿に満ち足りるでしょう。

ダビデは主に訴えています。このように私たちはありのままの思いを主にぶつけても良いのです。ただし、その祈りは変わってゆくでしょう。つまり正しいお方である主に答えていただきたいという切なる思いから、祈りは主のみこころになつたものとなってゆくのです。

作者も「私は、口のあやまちをしまいと心がけました。」と言っています。その祈りの中で、彼は「目ざめるとき、あなたの御姿に満ち足りるでしょう。」と、信仰の確信に立つことができました。

ありのままの思いを主に祈り、主によって変えられてゆきましよう。

愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、

